

## 26KB-am03

HPLCによる液剤中のオロチン酸(オロト酸)の定量

○奥村 浩<sup>1</sup>, 長谷川 倫子<sup>1</sup>, 西尾 知子<sup>1</sup>(<sup>1</sup>常盤薬品工業)

【目的】オロチン酸(オロト酸)は、ビタミンB13とも呼ばれるビタミン様物質であり、葉酸やビタミンB12の代謝に働きかけることが知られている成分である。また、肝臓障害や老化予防にも効能効果があるとされていることから医薬品ドリンク剤の配合成分として用いられている成分である。このため、ドリンク剤中の同成分を迅速かつ正確に定量することは必要不可欠なこととなっている。

しかしながら、本成分の定量法は、滴定法や比色法が主体であり、HPLCやGCを用いた機器分析手法の報告もされているが、前処理の煩雑さや製品中の夾雑成分の影響のため、製品中の本成分定量に適用することは難しいものとなっていた。このため、我々は、製品中の本成分を迅速かつ精度よく分析する手法を開発することを目的とした。

【方法及び結果】HPLC法を主体に、イオン交換カラム(陽イオン及び陰イオン)、ODSカラムによる検討(陰イオン及び陽イオン物質を用いたイオンペア法)を行った。その結果、陽イオン物質を用いるイオンペア法において良好な分離状態を得ることができ、直線性やドリンク剤からの定量においても良好な結果を得ることができた。

【考察】結果として、陽イオン成分を用いたイオンペア法を用いることで良好な結果を得ることができたが、本成分の構造から考えた場合、分離のメカニズムに不明確な部分があるため、今後、研究を進めていきたいと考える。